

山梨県の入園状況

岩間 松栄

一、我國の入園状況について

私共の幼稚園に於ける入園方法は入園受付の掲示を致しましてから入園願書の受付順に採り定員になり次第打ち切ります（特に身体的に欠陥のない限り）昭和二十九年年度迄の入園児の募集人員は一年保育百名、二年保育四十名となっており毎年ごと定員教をこえており何とかして是非入園させてほしいと云う方も随分ありますがお断りしている様な状態で何か事故があつて止めた場合のみ補欠をとっておりましたがこの昭和三十年年度に於ける入園状況は毎年の定員数に七、八名不足という所です。その他の幼稚園の状況についてもどの様な実状か調べてみましたが同様に定員数に不足というのが殆んどでした子供の教が今年からぐつと減つている一方、保育園が乱立し一般大衆の幼稚園と保育園についての認識がひ

低く、幼稚園と保育園は同じだという考えを持つており、幼稚園に入園すべき子供が保育園に入園してしまつたと云う実例が多く、之が今年度幼稚園の入園児減少と云う原因になつたと思ひます。

二、二、三年來の県内幼稚園

入園状況について

山梨県に於ては特殊の宗教關係の幼稚園及公立幼稚園（山梨県では只一つ）では特に智能テストを中心としたテスト法及身体検査、父母の宗教等に依り入園児を決定している所も一、二ありますが、之等を除く他幼稚園は矢張り私共の園同様願書の受付順から定員教迄を採つている幼稚園が殆どです。

入園状況も私共の園、同様で二十九年年度迄よりも三〇年度の入園児数が著減しております。

（城北幼稚園）

岩手県の幼稚園

森 純吾

岩手県の幼稚園教育は、幼児教育連盟や私立学校協会等の努力にも関わらず、關東以西地方に比して極めて低位にある。岩手県の面積は四国四県とほぼ同じ位であるが、その幼稚園の数は、本年四月一日現在で私立三一園、公立七、国立一で計三九園に過ぎない。その設置分布は極めて稀薄であると云える。明治年間には私立一、大正年間に於ては私立七園が出来ただけである。残りの三一園は、昭和になつてからのものである。そのうち昭和二十七年までに出来たものは、私立六、公立一、国立一園のみであつて、残りの公立六園は昭和二十八年以後であつて、私立の一七園も昭和二十七年以後に出来たものである。

岩手県に幼稚園の創設されたのは明治三十七年であるが、それ以來昭和二十七年まで約五十年間幼稚園の出来た数は二十七園で、そのうち正式に認可を受け現存しているものは

国立各一、私立一三、計一五園である。然し昭和二十七年、新しい日本の独立を境として急に幼稚園が増加していることを知るのである。本年四月一日までの三ヶ年間に公立七私立一七、計二四園が誕生しているのである。この間、丁度一ヶ月半に一園づつ増していることになる。これは不振であった岩手の幼児教育にとって劃期的な出来事である。尙現在各地で公私共に増加する勢にある。みちの奥岩手にもようやく幼児教育に光がさして来たようである。

幼稚園の現在の収容定員は、昭和二十九年四月の調によると、私立幼稚園に於ては定員三、一四九人、応募者四、三一人、合格入園者三、四〇一人となっている。県下全体で約一千名の入園出来ないものがあることになる。然しその大部分は都市の子供である。例えば盛岡市に於ては、私立幼稚園の定員八一五名に対して昭和二十九年の応募者は一、六五六人で約二倍強で半数以上の者が入園出来ないわけである。従って昭和二十七年頃から選抜が行われている。その方法は、所謂面談と称してメンタルテストや身体発育考査による選抜法、専ら抽籤による方法、願書受付

順序によって入園者をきめるもの等が主なものである。宮古市、一関市、久慈市等に於ても定員を超過し若干の選抜が行われているようである。都市部に於ては、何れもここの数年来希望者が激増して施設はそれに追つかない状況である。その他の地方に於ては大体希望者は全員収容されている。然しそれは施設の近くの人達だけである。遠い所の者や施設のない所の者はどうにもならないのである。

公立幼稚園の収容定員は、現在七園で約千名である。これ等も、何れも希望者を全部収容しきれない状況である。

昭和二十九年四月一日現在、県教育委員会の調査課の推定計算によると三才児の数は四〇、二五四人でそのうち入園者は一六二人、比率は〇、四〇二%である。四才児は四〇、八六〇人で、そのうち入園児は一、二二一人で、比率は二、七四%、五才児は四一、一九五人で、入園児は三、〇〇四人で、比率は七、二九%である。この外に現在岩手県には、六九の常設保育所があり、五、四〇〇人の幼児が収容されている。然しこれは社会事業としての収容であつて幼児教育としての幼稚園の施設並に被教育幼児は、極めて寥々たるも

のである。

岩手県の綜合開発や町村合併の推進されている折からでもあるので、これ等の進むにつれて幼児教育も急速な発展を見ることであろう。

(岩手大学附屬幼稚園)

(57頁から)

最後の仕上

げの討論や、質問等、いわゆる評価の期間を終り、修了証書を頂いて、この研究集会の幕を閉じました。感想をまとめるころの英文のレポートはいささか頭を悩ませましたが、ともかく提出をすませると互いに再会を約して、米国のみでなく各国の先生方の理解と親愛を深めるこのプログラムが無事終了したのです。その日の午後ワシントンD・Cを出発日本の一行は、シカゴ、デンヴァ、ソルトレイク等を経てサンフランシスコからアメリカ船プレシデント、ウイルソン号で懐しの故園へむかいました。ハワイに一日寄港、三月十一日の夜明を待ち兼ねて登った甲板で燈台のあたりをみつめ乍ら胸をとどろかせる私達をのせて船は横浜へと接近して行きました。

(千桜幼稚園)